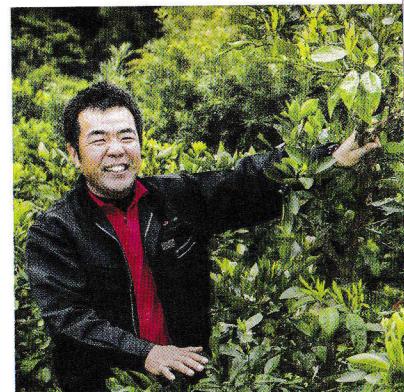


現場発 3カンの農薬と ホルモン剤の 使い方 新連載

かいよう病には 銅剤の早期&混用散布

坂田
寛樹



筆者（42歳）（赤松富仁撮影）

昨年、10月のせん定ふろしき樹冠上部摘果、根まで枯らせる除草剤の使い方など、ミカンづくりのワザを本誌で紹介してくれたJAながみね農業指導

導員の坂田寛樹さん。今号からは、ミニ
カングブリに欠かせない農薬やホルモ
ン剤の効果的な使い方を教えてもらいま
す。農家とのやりとりや地道な調査
から得た情報は必読です。

みなさんの畠のかいよう病発生状況はどうですか？和歌山県下津町では特に昨年、発生しやすい海岸沿いに限

そのため、5月中旬に散布

これらの問題をふまえ、
も逃してしまうのです。

特に多発する園でしつかり抑えるための工夫に加え、作業性を考慮した混用防除

銅剤は1カ月早い
2月下旬から

1回目の散布は約1カ月
早い2月下旬～3月上旬

着剤のアビオンE1000

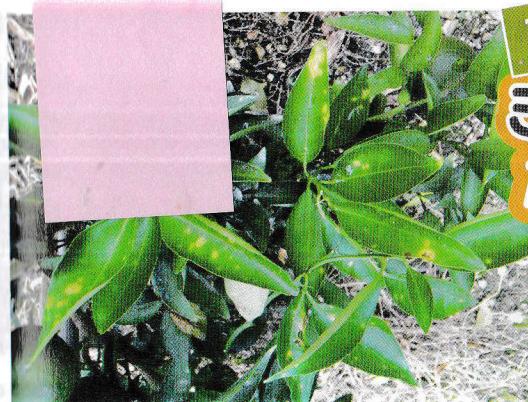
護効果の役割が大きい銅剤散布は、菌放出が始まる前

が有効。特に昨年の大発生園では、この時期の防除が大事になると考へています。

一般的な防除は適期より遅い

かいよう病の一般的な防除は3月下旬～4月上旬（発芽前～発芽直後）にICボルドー40倍、5月中旬（自己摘心終了後）にICボルドー80倍を散布することになります。しかしそれに問題があります。

かいよう病の病斑がついた葉



昨年大発生したかいよう病

表1 かいよう病の防除方法

		新たな防除方法	これまでの防除
2月下旬～3月上旬 病原菌動き始める	1回目 ICボルドー40倍＋アビオンE1000倍	(マシン油乳剤50倍)	
3月下旬～4月中旬 発芽前 発芽後	2回目 (どちらか) ICボルドー40倍＋アビオンE1000倍 ICボルドー40倍またはムッシュボルドー500倍＋ハーベストオイル60倍	1回目 ICボルドー40倍	
5月上旬 開花直前	3回目 (どちらか) ICボルドー80倍＋クレフノン200倍		
5月中下旬 開花期	ムッシュボルドー500倍＋クレフノン200倍＋ (開花期防除) ※ムッシュボルドーを使用した場合はジマンダイセンの間隔を短くする	(開花期防除) 2回目 ICボルドー80倍＋クレフノン200倍	
5月下旬～6月中旬		(上記の散布から10日以上あけてジマンダイセン)	

※カッコ内はかいよう病以外の防除

3回目の散布は5月上旬が理想です。一般的には5月中旬の自己摘心終了後にICボルドー80倍を散布しますが、それでは少し遅いと思います。5月下旬時点では新葉の発病割合を0・1%以下に抑えておけば、6月以降の防除効果が高まり果実感染は極めて少なくなります。

しかし実際5月上旬は開花期防除と重なり、散布間隔や労力が問題となる難しい現状があります。そこで省力化を重視する農家には、開花期防除とム

開花期防除に銅剤の混用も

この方法は5年前から推奨していますが、農家からは薬害・生理落果・奇形果の発生報告はありません。初めはムツシユボルドーとの混用をすすめていましたが、「効果が低い」という農家の声を受けて、薬害試験の結果もあわせて考え、今はＩＣボルドーとの混用をすすめています。

管内ではすでにこのやり方が普及し、農家の声からも効果が実証されています。昨年、かいよう病が多発した園では特に参考にしていただきたいです。

防除に混用できると判断しました。ただ、ICボルドーと比べ効果が劣るの
で、かいよう病多発園では5月上旬の
ICボルドー80倍+クレフノン200
倍の散布をすすめています。

ツシユボルドー15000倍の混用散布をすすめています。ムツシユボルドー1500倍はICボルドー50倍程度の銅を含み、石灰分が入っていないのでpH8と中性に近く、農薬混用が可能です。ただし欠点はICボルドーに比べ残効が短く、開花期防除に含まれるジマンダイセンと銅が若干反応し、や効果を落とすことです（日本農薬調べ）。JAではわざと害が出るような真更に代金を行なうことで、5月の通常

表2 ムッシュボルドー混用散布とミカンの薬害程度 (2014年)

処理区	薬剤	5月16日		5月22日	
		旧葉	新葉	旧葉	新葉
①	ムッシュボルドー 250倍	—	±	—	—
②	ムッシュボルドー 500倍	—	—	—	—
③	ムッシュボルドー 500倍+アビオンE1000倍	—	—	—	—
④	ムッシュボルドー 500倍+アタックオイル（マシン油）50倍	—	±	—	±
⑤	ICボルドー 66D 40倍	—	++	—	++
⑥	ICボルドー 66D 40倍+アタックオイル（マシン油）50倍	—	+	—	+

葉害程度（-：無 土：極少 +：軽微 ++：やや激しい）
→5月9日（開花直前）に散布し、5月16日と5月22日に調査

忙しい3月をはすす 銅剤+マシン油の混用

常識はずれ!? でも薬害なし

か?」という声をよくきました。常識的にマシン油は発芽前に散布するもので、ICボルドーも発芽後に散布すると薬害(芽焼け)が出やすいと思われているからです。

2014年に混用散布の試験を行ないました。とはいっても、私も初めはさすがに常識はずれだと思い、ICボルドーだけではなくムツシユボルドーも使ってみました。ムツシユボルドーはICボルドーに比べ、アルカリ性が低く薬害も出にくくないと考えたからです。4月16日に5年生青島温州にムツシユボルドー500倍で散布した結果、薬害の発生は認められませんでした。

さらに薬害の発生しやすい5月9日(開花直前)に散布した結果、ICボルドー40倍区では薬害程度がやや激しかったのですが、マシン油乳剤を混用した区では5月以降の散布で新梢が15cm伸びていても薬害の問題がないことがわかりました(表2)。